

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成26年4月3日(2014.4.3)

【公開番号】特開2012-8734(P2012-8734A)

【公開日】平成24年1月12日(2012.1.12)

【年通号数】公開・登録公報2012-002

【出願番号】特願2010-143087(P2010-143087)

【国際特許分類】

G 06 F 21/31 (2013.01)

G 06 F 21/62 (2013.01)

G 06 F 21/60 (2013.01)

【F I】

G 06 F 15/00 3 3 0 B

G 06 F 12/14 5 3 0 D

G 06 F 12/14 5 6 0 D

【手続補正書】

【提出日】平成26年2月18日(2014.2.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

即ち、本発明の携帯端末は、ユーザからパスワードの入力を受け付けるパスワード受付手段と、前記パスワード受付手段により入力を受け付けたパスワードに従い認証処理を行う制御手段と、前記制御手段による認証に失敗した回数をカウントするエラー回数カウント手段と、を備え、前記パスワード受付手段は、前記制御手段による認証に失敗した場合において、前記エラー回数カウント手段によりカウントされた回数が所定の回数に達するまではパスワードの再入力を受け付け、前記エラー回数カウント手段によりカウントされた回数が所定の回数に達した場合はパスワードの再入力を受け付けないことを特徴とし、さらに、所定の回避文字を含むパスワードにより認証に失敗した場合は、前記エラー回数カウント手段によりカウントされた回数が所定の回数に達した場合であっても、パスワードの再入力を受け付けることを特徴とする。

【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ユーザからパスワードの入力を受け付けるパスワード受付手段と、

前記パスワード受付手段により入力を受け付けたパスワードに従い認証処理を行う制御手段と、

前記制御手段による認証に失敗した回数をカウントするエラー回数カウント手段と、

を備え、

前記パスワード受付手段は、前記制御手段による認証に失敗した場合において、前記エラー回数カウント手段によりカウントされた回数が所定の回数に達するまではパスワードの再入力を受け付け、前記エラー回数カウント手段によりカウントされた回数が所定の回

数に達した場合はパスワードの再入力を受け付けないことを特徴とし、さらに、所定の回避文字を含むパスワードにより認証に失敗した場合は、前記エラー回数カウント手段によりカウントされた回数が所定の回数に達した場合であっても、パスワードの再入力を受け付けることを特徴とする携帯端末。

【請求項2】

前記パスワード受付手段によりパスワードの再入力を受け付ける回数であるパスワード入力回数上限と、前記所定の回避文字と、を記憶する記憶手段をさらに備えることを特徴とする請求項1に記載の携帯端末。

【請求項3】

前記記憶手段は、さらに、前記回避文字が有効になる回数である回避文字有効回数を記憶し、

前記パスワード受付手段は、さらに、前記エラー回数カウント手段によりカウントされた回数が前記記憶手段に記憶された回避文字有効回数と等しくなった場合、入力を受け付けたパスワードの回避文字部分が、前記記憶手段に記憶された所定の回避文字であれば、前記エラー回数カウント手段によるカウントをしないことを特徴とする請求項2に記載の携帯端末。

【請求項4】

前記記憶手段は、さらに、正しいパスワードを記憶し、

前記パスワード受付手段により受け付けたパスワードが、前記記憶手段に記憶された正しいパスワードか否かを判定する判定手段をさらに備え、

前記判定手段は、前記パスワード受付手段により受け付けたパスワードの文字数と、前記記憶された正しいパスワードの文字数とを比較することにより、間違ったパスワードであるか否かを判定することを特徴とする請求項2乃至4のいずれか1項に記載の携帯端末。

【請求項5】

ユーザからパスワードの入力を受け付けるパスワード受付工程と、

前記パスワード受付工程において入力を受け付けたパスワードに従い認証処理を行う制御工程と、

前記制御工程において認証に失敗した回数をカウントするエラー回数カウント工程と、を備え、

前記パスワード受付工程は、前記制御工程により認証に失敗した場合において、前記エラー回数カウント工程によりカウントされた回数が所定の回数に達するまではパスワードの再入力を受け付け、前記エラー回数カウント工程によりカウントされた回数が所定の回数に達した場合はパスワードの再入力を受け付けないことを特徴とし、さらに、所定の回避文字を含むパスワードにより認証に失敗した場合は、前記エラー回数カウント工程によりカウントされた回数が所定の回数に達した場合であっても、パスワードの再入力を受け付けることを特徴とする情報処理方法。

【請求項6】

前記パスワード受付工程によりパスワードの再入力を受け付ける回数であるパスワード入力回数上限と、前記所定の回避文字と、前記回避文字が有効になる回数である回避文字有効回数と、を記憶する記憶手段を備える情報処理方法であって、

前記パスワード受付工程は、さらに、前記エラー回数カウント工程によりカウントされた回数が前記記憶手段に記憶された回避文字有効回数と等しくなった場合、入力を受け付けたパスワードの回避文字部分が、前記記憶手段に記憶された所定の回避文字であれば、前記エラー回数カウント工程によるカウントをしないことを特徴とする請求項5に記載の情報処理方法。

【請求項7】

前記記憶手段は、さらに、正しいパスワードを記憶し、

前記パスワード受付工程により受け付けたパスワードが、前記記憶手段に記憶された正しいパスワードか否かを判定する判定工程をさらに備え、

前記判定工程は、前記パスワード受付工程により受け付けたパスワードの文字数と、前記記憶された正しいパスワードの文字数とを比較することにより、間違ったパスワードであるか否かを判定することを特徴とする請求項6に記載の情報処理方法。

【請求項8】

コンピュータを、

ユーザからパスワードの入力を受け付けるパスワード受付手段と、

前記パスワード受付手段により入力を受け付けたパスワードに従い認証処理を行う制御手段と、

前記制御手段による認証に失敗した回数をカウントするエラー回数カウント手段として機能させ、

前記コンピュータのパスワード受付手段を、前記制御手段による認証に失敗した場合において、前記エラー回数カウント手段によりカウントされた回数が所定の回数に達するまではパスワードの再入力を受け付け、前記エラー回数カウント手段によりカウントされた回数が所定の回数に達した場合はパスワードの再入力を受け付けないことを特徴とし、さらに、所定の回避文字を含むパスワードにより認証に失敗した場合は、前記エラー回数カウント手段によりカウントされた回数に達した場合であっても、パスワードの再入力を受け付ける手段として機能させることを特徴とするプログラム。